

出張町長室（大莞校区／第1回）開催結果概要

1 開催日時：令和7年12月13日（土）

　　第1部 9時30分～11時00分

　　第2部 参加がなかったため中止（議員1名来場）

2 場開催所：大莞コミュニティセンター研修室

3 参加者数：4名

4 主な意見と回答

○道の駅で販売しているお米に国の補助金を出し、安く売りだせば来場者が増えると思います。お米券の配布より効果的だと思います。

(町長) 住民の生ごみの分別の協力により生産される液肥を使ったブランド米の「環のめぐみ」は町民価格として、予約という形ではありますが4,000円で出しています。お米券に関して、経済対策として大木町には約1億6千万円程度の配分が来る見込みと予想していますが、「お米券」は批判もあり、物価高騰はお米だけでなく生活費全般に及ぶため、なるべく多用途で使える形にしたいと考えています。ただし、現金給付にすると消費動向が把握できず、できれば町内で広く使える商品券の方が適切ではないかと考えています。

○多世代交流棟のデザインが景観に合っていない。初めて見たとき、サーカス小屋かと思いました。デザイン料がものすごく高いと言われていたけど、どうなのかと思います。材料をもっといいものにすれば長持ちすると思います。

(町長) いろいろなご意見ありますが、最大公約数をとらなければならない立場で今回の方針を判断しています。

○アクアスもそうですが、子育て支援センターの裏（西側）の庁舎や倉庫の老朽化がひどく電車からも目立つくくらいに汚い。体育館の塗装工事があった時などに補修と一緒にすればいいと思いますが、建て替える予定はありますか。

(町長) 西別館については老朽化しており解体の方向です。八丁牟田駅から今あるアクアス、健康棟まで公共施設が集積しているので、そこをどういう形にしていくか内部協議を行っています。

○健康福祉棟に社協が入っていますが、健康福祉棟はどうなりますか。

(町長) 健康福祉棟は補修しながら残していく方針です。平成29年度試算では約5億円の補修で存続可能との見込みであり、健康福祉棟全体としては、そのままの形で維持することとしています。

○木佐木保育園の園舎の建築が進んでいるが総工費はどのくらいですか。

(町長) 総工費が5億円ぐらいで、うち補助金が3億円程度だと思います。

○若い世帯は核家族や共働きの世帯が多く、育児も大変のようです。子育てを経験したおじいちゃん、おじいちゃんたちが子供は預かれるみたいなことはできないかと思います。

(町長) 現在、ファミリーサポートセンターなど制度的にはあります。また、こども家庭センターでの事業や、「ねんねこクラブ」などでそういうボランティア活動を行ってもらっています。

○都会では中国人が土地や建物を買っていると聞きます。大木町には中国人に売った物件や土地はありますか。

(町長) 朝倉市の方でも問題になっていましたが、大木町ではそのような事例はないと思います。

○先日の住民説明会の開催結果などがホームページで公表されており、ずっと読んでいます。賛成反対どちらの意見もあると思いますが、賛成の意見は言いにくいのではないかと思ったのかと思います。

○(アクアスの雨漏りについて) 例えば屋根つければいいのではないかと思いました。西武球場が屋根をつけてドームになったように、真上につければ雨漏りはしないのではないかと思います。それから、地下室の機械の話ですが、なぜ出せないかよくわかりません。

(町長) 地下の機械室ですが、まず入り口がものすごく狭く、機械を出そうとすれば相当な工事をする必要があります。吊り上げることができないので、配管などを出すのに時間がかかります。今でも地下室に地下水が溜まっていて、電気系統もあり、漏電などの危険性もあります。また、建物2階に「銀河の間」という部屋がありますが、温泉の湯気が上がっており、継ぎ目などにカビが発生していました。温泉の成分で傷みが出ていたりしています。これまで大規模なリニューアル工事ができていませんが、公共施設なのでそれなりにお金かけてやらないといけません。そうなると、7年前でも18億円かかると試算されています。議会から今の時点ではどの程度かかるのか算定する必要があると言われてますが、物価高騰などで20数億円になるのではと思います。そのような中で、設置責任者、管理者でもあることから、現状では難しく再整備をするという方針としています。

○行政はお金使うことばかりするのですか。何かをしようと思ったらお金を使うばかり

り、国からお金が来てもそれを使うばり。町自体で稼ごうということはできないんですか。

(町長) 行政は皆さんから預かった税金を社会にどう使うかが役割であり、利益を出すことを目的としていません。大きい町の中には自ら収益を上げ、いろいろなことができるところもありますが、現実にはなかなか難しいのが実情です。それでも、ふるさと納税には職員が力を入れており、返礼品を提供する協力事業者の皆さんにも適切にご対応いただいており、大きなクレームはほとんどありません。何をもって儲かるかというのではありませんが、先日の意見交換会で財政課長の方から町の財政状況や見通しについて資料を示しました。大木町は比較的健全な団体であり、国のプライマリーバランス的な考え方、つまり入ってくる収入で町の運営が回っているかという点でも、今のところはほぼ問題ない状況です。

○あんまりいい例ではないですが、カジノを作ったら人は来るし、お金は落ちるし、ものすごく儲かるのではないのかな。反面、自己破産などの問題もありますが、そういう儲かる話がないかといつも思っています。盛り上がるのにとも思います。また、蛭池にイオンが出店し、地主の方たちに毎月多くの賃料が入っていると聞きます。のような企業が来たらいいのにとも思います。

(町長) 大木町は地形的に農地が多く農業振興地域に指定されています。農地の多くは土地改良事業で国県の補助金により整備されており、基本的に開発ができない地域となっています。八丁牟田駅や大溝駅周辺は土地改良事業を行っていないところもありますが、地権者もいますので用地を確保するのはなかなか難しい状況です。

○台湾の問題が取り上げられていますが、有事の際、避難される沖縄の方などを九州で受け入れる考えのようですが、大木町で対策はされているのですか。

(町長) 大木町で受け入れはできないと思います。まずその受け入れる余裕がありません。大きい都市部はそういう想定をしながら対策をしているようです。ただ、大木町の体育館は避難所施設という部分もあり、今空調の設計を行っているところです。来年度には着手をしたいと考えていますが、例えば南海トラフ地震が来た場合、広域避難という形で10人、20人でもいいから受け入れてくださいと要請される可能性はあると思います。

○本日の資料の最後のところに、「子どもの権利」について触れてありますが、子ども家庭庁が発足し、子ども議会などの取り組みも行われています。本来の行政や議会とは違うかもしれません、子ども一人ひとりの育ちを考えたときに、「子どもの意見」が大事な気がします。子どもの意見ではないかと大人は見てしまいますが、その中には子ども自身が主体的に考えていく姿勢があります。そんなところを真剣に

考えると、子どもの時からそういう関わり方、育ち方をするような仕組みが必要ではないかと思います。子どもの権利は、国際条約がありますが、国内では子ども基本法が作られた割には、その動きが見えません。私が教育者として思ったのは、やはり子どもの一人ひとりの意見を尊重すると言いますか、きちんと聞いて受け止めることが人権を育む教育につながってくると思います。資料ではその辺りがあまり見えてきませんし、資料の最後に記載されていることも少し気に食わないですが、きちんと書いてありますので、その辺りを大事にしてもらって、新しい方がせっかく大木町に家を建てて住まわれ始めていますので、この方々がずっとここに住んでやっぱり良かったと思うように持って行ってもらいたいと思います。

(町長) 私たちも当然その意識が必要だと思います。やはり子どもを中心に据えていかなければならぬと思います。子どもをもっと大事にというとちょっと語弊があるかもしれません、同じ権利を持った人間として関わっていかないといけないと感じています。

○どっちかといったら、僕たちはこなされて育ってるから、年上の人人がすべてで、下は言うことを聞いておくしかないような経験をいっぱいしてきました。ただ、それではなく、経験豊富な年配の人の話も大事ですが、同時にそういう若い人たちの話もしっかり受け止めていっていただきたいと思います。

(町長) 就任後、教育長に学校を訪問したり、給食一緒に食べて子どもたちといろんな意見交換したり、そういうのものをやりたいと何回か相談しました。なかなか実現していませんが、もう少し教育委員会の方に伝えて時間を取りたいと反省もあります。それから、子どもの権利についてはもう少し柔らかくやっていいのかなと思っています。この前の議会の一般質問でも話しましたが、「参加」から「参画」という言葉を使いました。例えば、大堀まつりだとMCを中学生が行っています。ホリデーミュージックも中学校の生徒会が行っています。しかしその時だけですので、そのプロセス、どういったプログラムにしようかというところから参画してほしいと思っています。大堀校区の地域食堂では子どもたちも一緒に調理を頑張っていますが、メニューも一緒に考えるなど、そういうところから行うのがいいのではと思っています。学校の義務教育課程でも自分たちで決めなさいということが行われていますが、学校だけではなく、地域や社会の中に少し参加して自分の意見が反映されたり、大人の意見こうだったんだとか、でもやっぱりこうじゃないかと考えたり、そういうことを感じさせることが子供たちを成長させるのではないかと思っています。

○親世代の人たちが、地域に無関心に感じます。地域の行事にしても、今日のこのようなことでも。それは、ここを離れるきっかけにもなるし、なかなかその辺りが難しいと思います。

(町長) 今は生活スタイルが多様化しています。だからこそ校区づくりの中で、自治区で
あったり、校区であったり、そういったところで「行ったら楽しいね」とか、「なん
か行かんといかんよね」というようなものを少しずつ作っていければと思います。